

新コロナ「BA.2.75」、感染力はBA.5の1.1倍 東京大学

10/13(水)日本経済新聞

東京大学の佐藤佳教授らは新型コロナウイルスのオミクロン型の派生型「BA.2.75」について、感染力や病原性などの報告をまとめた。感染力の指標となる実効再生産数は現在流行している派生型「BA.5」と比べると1.14倍だった。感染したハムスターの実験では、BA.2よりも体重が減り、呼吸機能の異常もみられた。今後の感染拡大に向けて注意が必要としている。

BA.2.75は「ケンタウロス」という俗称でも知られ、一部の国で感染者に占める割合が増えている。米スクリプス研究所がまとめるデータベース「outbreak.info」によれば、インドでは直近の新規感染者の約30%を占める。国内では7月に確認されたが、これまで大きな流行はみられていない。東京都のゲノム解析によれば9月にはBA.5が感染者の約99%を占め、BA.2.75は0.3%にとどまる。いずれも8月とほぼ変わらない。

研究チームはインドなどで解析されたウイルスの遺伝情報を基に実効再生産数を算出した。佐藤教授は「BA.2.75とBA.5の実効再生産数の差は大きくはなく、置き換わりに時間がかかっているとみられる」と話す。

それぞれの変異型をハムスターに感染させると、BA.2.75に感染した場合にはBA.2よりも体重が減り呼吸機能に異常がみられるなど、病原性が高いことが分かった。病原性はBA.5と同じかやや高い程度でデルタ型よりは低かった。

BA.2.75はBA.2と比べ、人の細胞に侵入する足がかりとなるたんぱく質「ACE2」と強く結合することも分かった。ワクチンを4回接種した人の持つ抗体に対し、BA.2.75はBA.2の約1.7倍の抵抗性があった。BA.5の抵抗性はBA.2の約2.1倍だった。

北海道大学や宮崎大学などとの研究チーム「G2P-Japan」の成果で、米科学誌「セル」姉妹誌に論文が掲載された。

今日のyoutube紹介下線をクリック

- 「インフルエンザに感染しやすい状況」新型コロナと同時流行を懸念

<https://news.yahoo.co.jp/articles/d20d03caca94e3ac92e9b9543f59ab4a1bd798d0>

- オミクロン株「BA.4-5」対応ワクチン接種開始 横浜市

<https://news.yahoo.co.jp/articles/5503ea02a6ff66024aad73405da1e14aa8532da>

- 発熱外来は高齢者や小学生以下の子どもなどに重点化 コロナ・インフル同時流行への対策

<https://news.yahoo.co.jp/articles/44c98043657ee1c0b8d99a31529112de3e5f0e53>

- コロナ・インフル同時流行の懸念 岸田総理「先手先手で対策準備を」

<https://news.yahoo.co.jp/articles/98d5fbfa3aa9dbb783e6514c9a538811990ca3c5>

- 【ノーカット】コロナ・インフルの“同時流行”備え対策公表 加藤厚労大臣会見

<https://news.yahoo.co.jp/articles/552f4ab786df81878d4ec641d273b61293ae347b>

- “脱マスク”いつ実現？外すと「周りの目が気になる」屋外は「原則不要」でも…

<https://www.youtube.com/watch?v=38b99LJoPEg>

- 日本の“脱マスク”は進むのか…水際対策緩和で個人旅行も解禁！

<https://www.youtube.com/watch?v=JVKWZkurK2Y>

今日のPDF紹介下線をクリック

- オミクロン「BA.5」、「BA.2」と毒性に差なし 動物実験で

- オミクロン型対応コロナワクチン、接種の効果や必要性は

- 新型コロナ 感染1年後も血栓症のリスクが少し高い 2020年データ